

# 10 内藤ジョアン

八木町

慶長十九年（一六一四）内藤ジョアンとその家族、妹ジュリアと修道女たちが、キリシタン大名高山右近らと共にルソン島のマニラに追放されました。キリスト教の禁教令を出した徳川家康が、改宗しよつとしない信者たちを国内から追放したのでした。

内藤ジョアンや妹ジュリアは、自分の信仰をあくまでも守り通したいと思いました。この兄妹は八木城（八木町大字八木小字内山六の二、二二三）の城主になったこともある内藤宗勝の子でしたが、長い戦乱の中で、丹波一円はさまざまに武將の勢が入りかわり、父は敗死、母も殺されるといふ憂き目にあい、兄妹の運命もゆれ動きました。

ジョアンは、一族のもとに山口から嫁いできたカタリナによって神やキリスト教について話を聞き、十数歳でルイス・フロイスによって洗礼を受けたようです。ジュリアは結婚したのですが、二十二歳で夫に先立たれ、一度は仏門に入りましたが、オルガンチノ神父の説教を聞いて、キリスト教の倫理思想に心の眼を開き、三十一歳で洗礼を受けました。彼女は女子修道会の組織づくりに力をつくし、まわりの人びとから、知性豊かで心清く美しい女性だと信頼されていました。

ジョアンは十五代將軍足利義昭に味方して従軍したこともある、キリシタン大名小西行長に登用され、豊臣秀吉の第一回の

朝鮮侵略、文禄の役の際には、行長軍に加わりました。和平交渉が始まるとジョアンは調和使節に選ばれ、中国の北京にまで赴いて和議を折衝しましたが、結果的にはうまくいきませんでした。

関ヶ原の戦いで小西行長が処刑されてからのジョアンは、加藤清正に仕え、まもなく加賀の前田家に仕えましたが、その間、キリスト教の禁止令は強まってきました。

天正十五年（一五八七）に秀吉が禁教令を出して以来、長崎でキリスト教徒二十六名の殉教があり、慶長十七年（一六二二）には家康によって禁教令が出て、ジョアンら百四十八名のマニラ、マカオへの追放へと続きます。

戦国の世は終りに近づきましたが、戦争に明け暮れたジョアンにとって、もっとも大切なものは神への信仰となっていたようです。日本最初の女子修道会へアタス会を設立して、清貧、貞潔、従順の生活をしてきたジュリアにとっても、改宗する気持ちは全くありませんでした。マニラでのジョアンは宗教書や医学書の翻訳、ジュリアは修道院の生活によって、信仰の自由という人権を守りぬきました。

（ナミチヤノ）



内藤ジョアン碑

メモ●「内藤ジョアン碑」は、JR山陰本線八木駅より徒歩10分